

創立の背景と歴史

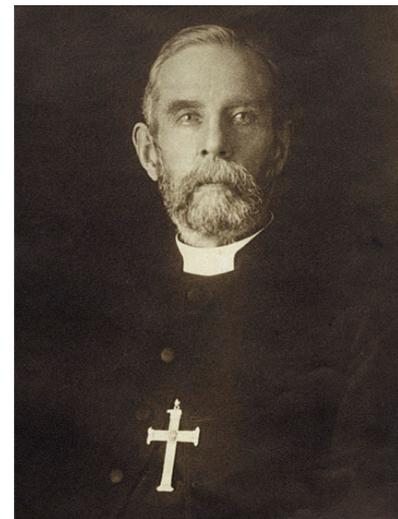
フォスはイギリス・ケンブリッジで学び、1876年(明治9)9月に同僚のF・B・ブランマーとともに来日。翌年には下山手通三丁目の倉庫を改造して、聖バルナバ教会をつくりました。同年、東京のライト司祭から受洗した水野が活動に加わっています。ブランマーが病気で帰国し、教育家のヘンリー・ヒューズがフォスの助手として来日。1878年(明治11)神戸市栄町四丁目に〈乾行義塾(現・聖ミカエル国際学校)〉という中等教育としては神戸初の男子校を開校しました。聖バルナバ教会はのちに鯉川筋に移転し、聖ミカエル教会に改称しています。

フォスは徒歩や乗馬で、淡路島や播州地方の伝道を行ない、1890年(明治23)淡路島の洲本に真光教会をつくりました。川路との出会いも、こうした縁から生まれています。1899年(明治32)フォスは大阪地方部の主教となり、大阪、下関、四国、淡路、小笠原、台湾といった広域の伝道を精力的に行ないました。語学の才能に恵まれ、ギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語のほか、日本語も堪能でした。日本語での聖歌集、祈祷書、聖書作成の功労者でもあります。

〈松蔭〉という名前の由来について、フォスはイギリスへの手紙の中で「松は非常に日本的な樹木であり、慎み深さと貞節を意味します。その松の木蔭に乙女たちが住み、学んでいるという姿が、この名前を通して私たちが日本人たちに伝えたい学校の理念です」と書き送っています。また、北野町の校舎の西隣には、実際に大きな三本の松の木がありました。今でも新神戸駅より西200mの所に〈三本松〉という地名が残っており、そこに松蔭創立記念碑があります。

松蔭女学校が開校した年、神戸には公立の高等女学校は1校もなく、私立学校としては3校目で、日本の文化を尊重しつつ、教育を通してキリスト教の精神を日本の若い女性に伝えようとししました。当時のミッション系女学校でありがちだった西洋式教育一辺倒ではなく、教養ある家庭婦人の育成を目的としたのです。そこには望月興三郎という蔭の尽力者がありました。望月は同志社神学部を卒業して、大阪の梅花学園の校長、大阪YMCA勤務ののち、健康を害して神戸にいたところをフォスに招かれます。日本の国情に合った女学校の在り方について著した『家族主義女子教育』という著作を残しています。クニ夫人も教育者で松蔭女学校でしばらく働き、のちに神戸市立神戸幼稚園の園長になっています。徳富蘇峰の創刊した『国民新聞』などに掲載した生徒募集の広告には、望月の提唱した「家族(家庭)主義」が明記されていますが、実際にはフォスやパーケンヘッド校長と教育方針についてぶつかることがあり、岡山の山陽女学校校長に招聘され、松蔭女学校を去りました。

初代校長のパーケンヘッドは、開校の年の8月に辞任、2代目モラーを経て、ジャネット・リーナ・オーヴァンスが3代校長に就任しました。彼女はのちにフォスと結婚しています。オーヴァンスが校長になったころから生徒が激増し、新しい校地・校舎が必要になりましたが、SPGの対応が遅れたことから、フォスが自ら校地・校舎を取得。卒業生によるバザーの売上や、日本人信徒からの寄付も新校舎建設に寄与しています。これらはSPGに貸与されていましたが、1917年(大正6)フォスの好意で譲渡されました。



創立者 Hugh James Foss (1848~1932年)
語学にすぐれ、日本語の聖歌集、
祈祷書、聖書作成にも貢献しました。



創立

1876年(明治9)イギリス国教会の海外伝道機関 SPG (Society for the Propagation of the Gospel) は、ヒュー・ジェームス・フォスを神戸に派遣し、伝道を開始しました。フォスは、女性も人間としての尊厳を享受できる教育が必要であると痛感し、遅れて日本にやって来た女性宣教師 H・M・パーケンヘッドらと 1892年(明治25)神戸市北野町に〈松蔭女学校〉を設立しました。校舎は、旧・三田藩主の九鬼隆義から別荘の一部を借用したものです。

松蔭女学校設立の発端は、1866年(慶応2)非キリスト教国における女子教育を振興するために組織された団体 Ladies Association が、1889年(明治22)神戸で活動を開始したことに因ります。フォスは Ladies Association から女学校設立にかかわる全権を任せられ、1891年(明治24)女学校設立委員会を発足させます。この中には神戸 YMCA の発起人の一人であった水野功がおり、長くフォスの助け手となりました。

松蔭女学校は、1915年(大正4)には松蔭高等女学校となりましたが、高等女学校設立認可の申請にあたって、フォスは人材の必要性を痛感します。こうして招かれたのが、洲本の淡路高等女学校校長の川路寛堂でした。川路は江戸に生まれた旧幕臣で、祖父は開国論で知られた聖謨です。昌平坂学問所で儒学を、蕃所調所(のちの開成所、東京大学の前身)でオランダ語を、中浜万次郎から英語を学び、『西国立志篇』の翻訳者 中村正直らとともにイギリスに留学、岩倉使節団には三等書記官として随行しています。松蔭女学校に来たときには 69 歳の高齢でしたが、高等女学校への昇格と財団法人設立のために尽力しました。

戦後の学制改革により、松蔭高等女学校は 1947年(昭和22)松蔭中学校へ、1948年(昭和23)には松蔭高等学校へと改組され現在に至っています。また、1947年には高等教育機関として、松蔭女子専門学校が開校され、短期大学、4年制大学、大学院へと発展していきました。短期大学は青谷で、大学は垂水で、それぞれ別々に運営されてきましたが、1981年(昭和56)六甲の地に統合されました。1995年(平成7)神戸松蔭女子学院大学、同短期大学に改称し、2000年(平成12)には大学院を開設しました。

建学の精神

キリスト教の「愛」の精神



松蔭女子学院 校章・マーク
三蓋松の校章の由来は不明ですが、1906年(明治39)には生徒たちの左胸に既につけられています。校名の由来同様、日本的な慎み深さと貞節を意味し、校舎の隣りにあった〈北野の三本松〉に因んでいると思われまます。

学校法人 松蔭女子学院

〒657-0015 兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1

TEL : 078-882-6122 FAX : 078-801-1185